

# メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第82号

[2016年3月号]

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。  
JAM 会報メール第82号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。  
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<目次> [ページ]

メソトマンスリー

国内から

編集後記

次号の予定



メソトマンスリー

【メソト＝神谷 友子】



## 新メータオ・クリニックへの移転が開始しました

1989年にDr シンシアがメータオ・クリニックを作ってメソトで診療を始めてから27年。ミャンマーでは昨年末の選挙で民主化を進めるアウンサンスーチー氏率いる国民民主連盟(NLD)が、多くの民衆の支持を集め、これからが期待される所です。とは言え、すぐにミャンマー国内がすぐに住みよい場所となるわけでもなく、医療や教育、住居、仕事などの整備はまだ課題が多く残っています。

ミャンマー人の医療をタイ国境で支えるメータオ・クリニックの建物は決して衛生的であるとは言えず、老朽化が進んでいました。メータオ・クリニックは新しい土地に建て替えられることとなり、まだ一部建築中ではありますが、診療を行う建物は完成し、昨年より図書室の本など、事前に運べるものは少しずつ新しいクリニックへと運びこまれていました。

3月に入り、日本政府の資金協力によって建てられた薬剤部の部屋へも大きな棚が運ばれており、他の部署のスタッフと一緒に私もお手伝いをしました。3月11日は外科病棟からベットやいろいろな物品が運び出されて、新しいクリニックにきれいに並べられました。12日はいよいよ入院患者さんの搬送です。以前の外科病棟は36床で、時にはベットが足りずに床にごさを敷いて簡易ベットにすることもあったくらいですが、今回は引っ越しに備えて患者さんを絞って入れていたようで10名の患者さんが引っ越し当日に入院されていました。医療アドバイスをしているフランス人医師のバレンタイン先生が、事前に「徒歩」「車いす」「担架」と搬送手段を分かりやすいようにカルテにイラストを張るなどの準備をしてくれていて、徒歩移動できる患者さんからスムーズに移動。私が看護ケアを担当している2名の患者さんは車いすごと車に乗って新しい病棟へ移動しました。

外科のスタッフは患者さんを気にかける余裕もなく、備品の配置や掃除で手いっぱいの様子。リハビリのスタッフと私とで、付き添い家族のいない2名の患者さんのベット周りの環境を整えたり、食事介助をしてきました。14日には、外科外来の診療も新しいクリニックで開始。今まで外科には室内にトイレがなかったのですが、新しいクリニックには室内にトイレもシャワーもあります。以後、他の病棟や外来も順次移動して5月中にはほぼ全ての部署の移動が終了する予定です。

新しいクリニックの周辺はまだ畑だらけで、街灯はなく夜になると真っ暗になります。新しいクリニックが完全に移転したら、もっと周囲に売店や食堂、スタッフの家も引っ越ししてくるのでしょうか。少しずつ変わりゆくメソトの街並みを見ることができるようになるのは楽しみです。ありますが、反面、ミャンマー移民の人たちが祖国に帰ることができるようになるのはいつになるのかな、と思うこともあります。

メータオ・クリニックでは、スタッフへの看護トレーニングがまもなく開始される予定です。ミャンマー人看護スタッフのサラさんが中心となってプログラム作成をしていて、私もそのお手伝いをしています。来月はその様子が報告できるかと思っています。





新しいクリニックへと向かう搬送用の車に乗り込む外科の患者さんご家族



外科病棟で搬送を待つ患者さん。ほとんどのベットは先に新クリニックへ搬入すみのためガランとしています。



新クリニック外科病棟前の風景。靴を置く棚を運んでいます。



病室内に手洗い場ができました。スタッフも患者さんもすぐに手を洗って清潔にすることができます。



今まで使っていたベット柵のある医療用ベットは修理に出すとのことで、転落防止のためにエアマットを床の上に直接置きました。どのベットにも床頭台が配置されています。今までは患者さんのものはベットや床上に直接置かれていました。



食事介助をするミャンマー人看護トレーナーのサラさん。患者さん様にもっと大きいエプロンを用意したほうがいいね、などいろいろなアイデアを話し合いながら一緒にケアをしました。本来であれば、自主的に外科のスタッフがいろいろやってくれたらいいのですが、この病棟での看護ケア指導は道のりが長そうです。



新クリニックの周囲は一本道の横に広がる畑。

## 今月メータオクリニックに来てくださった方々

今月、3組の方がメータオ・クリニックに訪問されてご寄付を頂きました。

3月7日には吉沢様3名様がシンシア先生に直接寄付金を届けるために訪問いただきました。個人で100万円ものご寄付ありがとうございます。また、バンコクのお住まいのご友人からのご寄付もお預かりいたしました。

8日には愛知学院大学の先生と学生8名様がメータオ・クリニックの見学にお越しくださいました。お預かりした古着や文房具は移民学校の生徒や、生活に困っている移民の皆様にお届けしたいと考えています。

18日には韓国人のお坊様の李様が見学に見えてご寄付を頂きました。ご案内いただきました渋谷様ありがとうございます。

お預かりしました寄付金などは、現地での活動に使用させていただきたいと思っています。皆様のあたたかなご支援に心より感謝申し上げます。



2016年3月7日 吉沢様 3名





2016年3月8日 愛知学院大学様 8名



2016年3月20日 左から、洪田様、神谷、李様、2月よりメータオ・クリニックにボランティアに来ている藤原助産師。

## きょうのゆめ

今月は、小児科外来に勤務する Paw Eh ポエさんにお話しを伺いました。

ポエさんは1990年生まれの25歳女性、カレン州の Htee Moo Hta ティムタ村(メソトから車で3時間ほどとのこと)の出身で、4人の兄弟と1人の妹がいます。彼女が14歳のとき、父親は農作業中に頭上に大きな岩が落ちてきてお亡くなりになったそうです。

ポエさんの村では、今では8年生までのクラスがありますが、当時は4年生までしか学校がなかったために、勉強を続けるために他の友人2人とともにメラ難民キャンプへと移りました。キャンプの学校で12年生まで勉強をして卒業、さらに学問を続けるためにキャンプ内にあるクリスチャンのカレッジで5年間学びました。その後 KNU : Karen National Union (カレン民族同盟)というカレン州の反政府軍事組織で、Medical student として6か月医療の基礎知識を勉強。最初の一か月は銃の扱い方や、木の枝での銃の作り方など軍事訓練を受けたそうです。ここで基礎的な医療の勉強をした人の多くは、そのまま他の村へ移り、負傷兵の治療にあたるとのことでした。ポエさんの同期85人のうちポエさん含め2名がさらに医療の勉強を続けるために2年前にメータオ・クリニックへ来たそうです。ポエさんの親戚がメータオ・クリニックで働いていたため、呼んでくれました。そのおじさんは今でも外科



のスーパーバイザーとして勤務しています。ミャンマーの村で負傷兵の治療をするよりも、ここメタオ・クリニックの方がいろいろな病気の人が来ているから多くのことが勉強できると話していました。今はコミュニティヘルスワーカーになるためのトレーニングを受けながらメタオ・クリニックで仕事をしています。週に1回のCME: Continue Medical Educationという講義は、すべてのメタオ・クリニックのスタッフが参加することができて、時には海外からのボランティアの医師がいろいろなテーマで講義をしています。ポエさんはまた、来週から始まる看護トレーニングへの参加も希望しています。

週に1回のお休みの日曜日には、クリニック内にある教会の活動に参加。空いている時間は音楽を聴いたり、親戚のおじさんの家にテレビを見に行ったり、聖書や医療の本を読んで勉強したり。タイ語は分からないけど、タイのテレビを見るのが好きです。

そんなポエさんの夢は、

①将来故郷の村で医療従事者として働くこと！または、②アメリカやカナダなどの海外に第三国定住すること！

ポエさんの村には、公立の小さなヘルスセンターはありますが、医者はいなくて看護師が一人いるだけ。その看護師は患者さんのことをちゃんと見ることもなく、患者さんに欲しいと言われた薬をただ売るだけだったそうです。ポエさんはミャンマー国内での正式な医療トレーニングを受けたわけではないので、この公立のヘルスセンターで仕事をすることはできません。だから村長に頼んで、民間のヘルスセンターを作ってもらって、そこで村の人たちに本当の医療を提供したいそうです。これは大きな挑戦だから実現できるか分からないけど、でも私の夢なの、と話していました。

もうひとつの夢の第三国定住は、チャンスがあれば海外に行っているいろいろな経験をしてみたいそうです。もしも両方ダメだったら、このままメタオ・クリニックで仕事を続けたい。故郷の村はみんな農作業をしていて、医療のスキルを生かせる仕事がないそうです。

カレン州では、どの家族も18歳以上の未婚の男子を一人KNUに兵隊として差し出すきまりがあるそうです。ポエさんの弟は勉強が好きではなかったので14歳の時からKNUのメンバーとなり、19歳の時に戦死。今でこそ落ち着いてきたもの、ポエさんが5歳の時は村での戦闘がおこり1年ほど森に隠れ住んでいたそうです。その間は学校にも行けませんでした。KNUについてどう思っているか聞いてみると、「GOOD」との答え。村人を守ってくれるし、みんなが尊敬していると。兵隊たちは食料はあるものの給料はなく、必要なものがあれば家族に頼んでお金を送ってもらうそうです。村によっては女の子が兵隊になることもあるそうですが、ポエさんは参加したくないと。それよりも勉強がしたい、医学の勉強をしたらもっと稼ぐことができるからと言います。

以前は友人と4人で一緒に住んでいたけど、今は一人なの。いつでもご飯を食べに来たり遊びに来てね、というポエさん。私がポエさんと初めて会ったのは、メタオ・クリニックのトレーニングセンターの部屋を使って毎週日曜日に行われている教会です。みんなが帰った後に掃除の手伝いをしていたら声をかけてくれたのがポエさんでした。「今日は一人友達ができた」と嬉しそうにしていたポエさん。ここメタオ・クリニックで働くスタッフの多くは、ポエさんのようにミャンマーの故郷を離れて異国の地へ一人で渡ってきています。私も、周りがミャンマー人ばかりで言葉は分からないし時に孤独を感じることもあります。単身で勉強や仕事のためにメソトに来ているミャンマー移民の人たちもまたそうなんだろうなと思いました。メンタルヘルスケアの必要性について再認識したとともに、同じ境遇の仲間と一緒に過ごすことでお互いを癒し合い助け合って生活しているのだろうと想像します。

ポエさんの夢がかなって、故郷の村で「ティムタのシンシア」と言われるような医療者と



なり、村人たちの健康を守るような存在になりますように。ポエさんが参加するかもしれない看護トレーニングのお手伝いを私もしています。心からポエさんを応援します！



小児科外来にて、患者さん受付用のノートを書いています。この日は33人の患者さんが来ていました。



ポエさんの自宅でお話を聞いた後に二人で一緒に夜ごはん！と思ったら、近所に住んでいる小児科病棟のスタッフが遊びに来ました。いつも来るわけではないそうですが、私(外国人)がいたので珍しくて顔をだしたようです。



お母さんがくれたという、ポエさんの村で採れた野菜とイノシシ肉。ポエさんの手料理です。



内科病棟スタッフの結婚式にて。いつか私たちもこんな素敵な式を挙げられますように！

国内から

【東京＝上田】

## 9年越しの土地

時が過ぎるのは本当に早いものです。6年ほど前まで、メータオ・クリニックで経理と資金調達の仕事をしていた、上田と申します。

先日の Facebook で、いよいよ 5月 28日には新天地でのメータオ・クリニックのオープニングを祝う式典が催されることが発表されました。

<https://www.facebook.com/JapanAssociationforMaeTaoClinic/posts/1070894392930889>



今となつてはこのように立派な敷地内ですが、自分と息子がちょうど7年ほど前にシンシア先生を付き添って訪れたこの土地は、ちょっとした池を囲った、ただの田んぼでした。



この土地は、2007年にやっとかさ資金を集めて買った場所で、その後地盤を固めるためのプロジェクトや、それぞれの建物を立てるための企画書が提案され続けました。クリニックにとっては9年間の歳月を経て、ここまでたどり着いたということになります。

その過程の序盤から関わっていた私は、去年、久しぶりに訪れたこの土地でほとんどの建物が完成している姿を案内してもらった時、とても胸を打たれる想いでした。現地でも毎日、毎月、毎年それを見守っていた皆にとって今回の式典は、さぞかし感慨深いものになるのではと想像します。

やっと手に入れた、安心して活動がおこなえる土地。その意味は、クリニックのコミュニティにおいて、重要な役割を果たしていくことに違いありません。これからも皆がより一層頑張っていけるように、ささやかながら自分なりの支援をしていきたいと強く感じます。

## 編集後記

鼻詰まりがつらいです。天気がいい日は、目もかゆいかゆい。薬で口が乾くうえに、鼻が詰まって口呼吸なので、いろいろ疲れます。桜の開花宣言が聞こえてから、ここ数日は、ちょっとマシになってきたような・・・ああ、でも、やっぱり今日も目がかゆい。

## 次号の予定

次号は、4月中～下旬ごろ配信の予定です。  
ホームページは、随時更新してまいりますので ぜひ、お時間があるときにご覧ください。

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さり、心より御礼を申し上げます。JAMの活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動



